八ツ場の57年

苦悩の軌跡 ⑭

長野原町の水没5地区（長野原、横壁、林、川原湯、川原畑、住民が1999年7月、土地や家屋などの財産がどれくらいになるかを確定するための用地補償調査協定に調印したことで、八ツ場ダムは建設に向けて本格的に動きだした。

建設省（現国土交通省）は同年9月、ダム本体や周辺道路の建設、鉄道の付け替え、代替地造成などを行う際に必要となる工事用進入路の用地調査に着手。一方で、水没地区住民の移転希望先を尋ねる意識調査も間もなく始まった。

八ツ場ダムの工事用進入路は、2㌔にもなる横谷沢（普通）4千円③山林（が内）1900円を仮価格とし、その70%を地上権設定料として前払いするとの約450人に上った。

建設省と地権者の用地交渉は用地補償調査協定の締結後、地区ごとに実施され、交渉は93年11月、川原畑地区で開かれたのを最後に終結。八ツ場ダム工事事務所と水没5地区住民との間で合意に達した。

補償調査協定の締結については、同年9月、ダム本体や周辺道路の建設、鉄道の付け替え、代替地造成などを行う際に必要となる工事用進入路の用地調査に着手。一方で、水没地区住民の移転希望先を尋ねる意識調査も間もなく始まった。

八ツ場ダムの工事用進入路は、2㌔にもなる横谷沢（普通）4千円③山林（が内）1900円を仮価格とし、その70%を地上権設定料として前払いするとの約450人に上った。

建設省と地権者の用地交渉は用地補償調査協定の締結後、地区ごとに実施され、交渉は93年11月、川原畑地区で開かれたのを最後に終結。八ツ場ダム工事事務所と水没5地区住民との間で合意に達した。

合意内容は工事用進入路に当たる用地について、1平方㍍当たり①農地（田・畑）1万6100円②山林（普通）4千円③山林（が内）1900円を仮価格とし、その70%を地上権設定料として前払いするとの約450人に上った。

建設省と地権者の用地交渉は用地補償調査協定の締結後、地区ごとに実施され、交渉は93年11月、川原畑地区で開かれたのを最後に終結。八ツ場ダム工事事務所と水没5地区住民との間で合意に達した。

合意内容は工事用進入路に当たる用地について、1平方㍍当たり①農地（田・畑）

工事用進入路

42年の歳月経て着工

期については「早ければ年末までに水没5地区住民と農地所有者計474人を対象に移転先に対する初の意向調査を実施した。住民の7割は生活再建案で示した代替地への移住を希望。町外への移住希望は1割で、2割が態度を保留した。移住する宅地や現在地の2倍程度の面積を望む回答が多く、農地所有者の代替地希望は6割に上った。

移転先の意識調査

建設省は1993年11月末までに水没5地区住民と農地所有者計474人を対象に移転先に対する初の意向調査を実施した。住民の7割は生活再建案で示した代替地への移住を希望。町外への移住希望は1割で、2割が態度を保留した。移住する宅地や現在地の2倍程度の面積を望む回答が多く、農地所有者の代替地希望は6割に上った。

補償額とは一切関連を持たないことが明記された。

合意を受けて同工事事務所は、地権者と個別に地上権設定契約を急ぎ、着工時期については「早ければ年